11 月 9 日、10 日の 2 日間、石川県立音楽堂、ホテル日航金沢、金沢市アートホールにて開催された、第 68 回日本生殖医学会学術講演会・総会に奥院長と培養士 2 名が参加し、1 演題をポスター発表いたしました。

今回の学会では、胚盤胞のグレードに用いられている Gardner 分類の提唱者である Gardner 氏による講演がありとても貴重な機会となりました。また、たくさんの先生方の講演により大変勉強になることも多く、この経験をクリニックや皆様に還元できるよう精進したいと思います。

今回のポスター発表では「胚盤胞期胚の収縮が胚発育に与える影響」について報告しました。

タイムラプスでの培養により、胚盤胞期胚の収縮が観察することができます。収縮は発育に重要な役割を果たしていると考えられていますが、虚脱による強い収縮はその後の胚発育に負の影響があるという報告があります。そこで収縮の程度別に形態学的評価および妊娠率を比較し、胚発育と収縮の関連性について検討しました。

虚脱による強い収縮が見られた胚は細胞崩壊のダメージから良好胚が少ない、一方、中程度までの収縮は妊娠に必要である可能性が考えられました。収縮が起こる原因は不明だが収縮が強い胚は胚盤胞形成時間が長いことから、腔内への培養液の取り込み不良により、収縮後の再拡張および細胞増殖ができず、虚脱に至った可能性が考えられました。

培養部　吉本　哲也